

百里飛行場新交流拠点整備基本計画

羽鳥駅前地区（素案）

令和5年5月

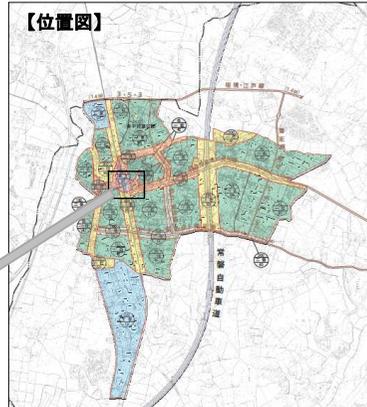
百里飛行場新交流拠点整備基本計画 羽鳥駅前地区（素案）

1. 地区の概要

(1) 概況

本地区は、本市西側を通るJR常磐線の羽鳥駅東口駅前広場の北側に位置しており、地区面積は約4,140㎡である。

計画地は、市街化区域の近隣商業地域内に位置し、土地は市有地となっている。



- 用途地域の概要
- ・用途：近隣商業
 - ・建蔽率：80%
 - ・容積率：300%
 - ・準防火地域

■近隣商業地域の建築制限（小美玉市の用途別建築制限）

用途	建ぺい/容積	高さ制限	防火等	壁面後退	道路斜線規制	隣地斜線規制	北側斜線規制	日影規制
近隣商業	80/300	—	準防火	—	1:1.5 適用距離 20m	20m +1:2.5	—	—

現地は、西側にJR常磐線が通り、北側は未利用地（駐車場）、東側は住宅地に接し、南側は羽鳥駅東口駅前広場に面しており、現在は、ベンチなどが置かれ、広場として利用されている。

なお、JR常磐線の羽鳥駅については、小美玉市の陸の玄関口にふさわしい施設として整備が行われ、橋上駅舎及び自由通路が令和2年2月に、東西駅前広場が令和3年3月に、それぞれ全面供用開始されている。





2. 新まちづくり構想（策定中）における基本方針

- 基本理念：(仮) 空に親しみ、空を身近に感じるまちづくり
- 基本方針：
 - 1 百里基地や茨城空港を生かした交流を創出します。
 - 2 茨城空港と JR 羽鳥駅の拠点化と連携、国道 6 号バイパス等を契機として、東西域のまちづくりの一体性を創出します。
 - 3 人々の暮らしや活動の場である、市街地や公共施設のアップデートを進めます。

●羽鳥駅前地区

現状と課題	JR 羽鳥駅東口駅前広場に隣接する市有地の活用が求められており、近傍の公共施設の統廃合と連携しながら、公共サービスをはじめとする利便機能の集約化を図るとともに、本市への玄関口としての機能充実が求められます。そのため、新交流拠点の羽鳥駅前地区は、『茨城空港周辺へのゲート、自衛隊広報支援、市民交流拠点』と位置づけ、必要となる機能の導入を検討します。	
基本方針	JR 常磐線羽鳥駅前という立地を生かし、美野里地区の生涯学習施設や社会教育施設の集約による地域住民の生活利便性の向上に資する機能導入を図るとともに、市外からの来訪者に向けた茨城空港や百里基地、周辺における施設や様々な活動の発信を行うことにより、本市の玄関口として百里飛行場前地区への来訪を誘導します。	
取り組み	取り組み	概要
	駅前交流拠点としての場づくり	<input type="checkbox"/> 図書館機能、生涯学習、集会所、会議室の設置 <input type="checkbox"/> カフェ、コンビニの誘致 <input type="checkbox"/> 茨城空港利用者支援機能整備 (荷物一時預かり、空港シャトルバス案内、タクシー依頼、航空チケット予約・販売など) <input type="checkbox"/> 観光案内所の配置 <input type="checkbox"/> 行政窓口、公民館、多目的ホール(投票所利用含む)の設置 <input type="checkbox"/> 防災拠点となる施設整備(地下備蓄室)
	自衛隊との共生・交流を促進する場づくり	<input type="checkbox"/> 自衛隊(陸海空)の広報 <input type="checkbox"/> 音の体験施設の PR(百里飛行場前地区の羽鳥サテライト：基地の音、都会の騒音、自然災害の音) <input type="checkbox"/> 常設映像展示・パネル展示 (自衛隊の装備、活動、訓練、全国の基地) <input type="checkbox"/> 自衛隊イベントとの連携 (音楽隊コンサート、各地のイベント中継) <input type="checkbox"/> 自衛隊活動のセミナー開催(災害対策、領土防衛)
	百里飛行場前地区等のサテライトになる場づくり	<input type="checkbox"/> 茨城空港周辺施設の紹介 <input type="checkbox"/> 空のえきそ・ら・らの取扱商品の PR・販売 <input type="checkbox"/> 地域特産品の販売



3. コンセプトと整備の方向

(1) コンセプト

新たな“玄関口”における

～多様な人々の新交流拠点～

(2) 整備の方向

羽鳥駅周辺については、第2次総合計画（平成30年3月）において「本市の陸の玄関口として活性化させるため、人が集まる魅力づくりに取り組む」と位置づけられており、本施設は、既存施設（羽鳥ふれあいセンター、羽鳥公民館、美野里公民館）の集約・複合化を図るとともに、その目的を実現する“新交流拠点”として計画する。

施設のイメージは、市民や来訪者、自衛隊員など、多様な人々が行き交う『羽鳥駅周辺』における“とまり木（perch）”として、人々が気軽に立ち寄り、集まり、交流する施設として計画する。

施設の具体的な導入機能は、新まちづくり構想を受け、下記の4つを機能の柱として計画する。

